

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2000-315579 (P2000-315579A)

【公開日】平成 12 年 11 月 14 日 (2000.11.14)

【出願番号】特願 平 11-123002

【国際特許分類第 7 版】

H 0 5 B 33/14

C 0 9 K 11/06

【F I】

H 0 5 B 33/14 B

C 0 9 K 11/06 6 4 5

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 7 月 21 日 (2004.7.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

従来知られている赤色の発光層材料としては、上記の D C M 誘導体、ナイルレッド (S c i e n c e 2 6 7 , 1 3 3 2 (1 9 9 5))、ペリレン誘導体 (A p p l . P h y s . L e t t . , 6 4 , 1 8 7 (1 9 9 3))、ユーロピウム錯体 (C h e m . L e t t . , 1 2 6 7 (1 9 9 1)) などがあるものの、発光効率、長期の安定性の面で必ずしも満足のいくものではなく、発光効率に優れるとともに寿命に優れた赤色発光材料の開発が望まれていた。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

これらの化合物を用いることにより、高い輝度での発光が可能であり、特に、黄色～赤色の長波長領域の発光色の有機 E L 素子を得ることができる。また、連続駆動や、パルス駆動においても長期にわたって安定した特性を得ることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 8】

例 7 (比較例)

例 5 のキナクリドン化合物 (式 (1 0)) の代わりに下記式 (1 2) で表されるナイルレッドを用いたこと以外は例 5 と同様にして、有機 E L 素子を作製した。この素子の発光層内のナイルレッドの濃度は 1 . 5 モル % であった。